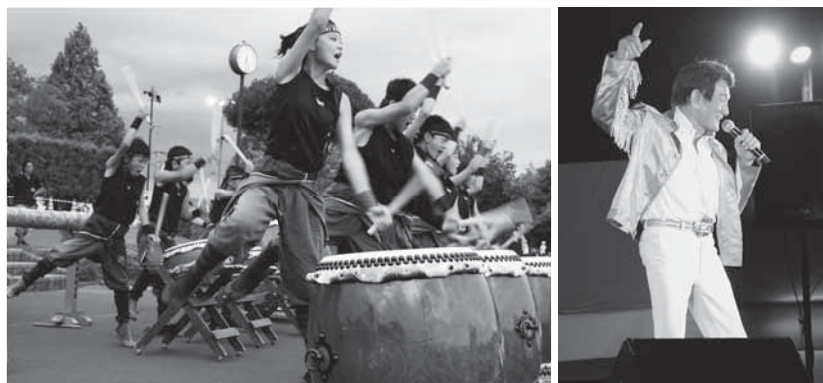




子どものころは
お父さんとお母さんと
手と手をつないで歩いた
大きくなって
友達と一緒に初めて着た浴衣
少し大人になった気がした
今は大切なあのひと
そして自分たちの子どもと
いちご味のかき氷を食べた
長年連れ添った夫婦で
孫と一緒に見る打ち上げ花火は
一段ときれい
同じものを食べて
同じものを見る
一緒に笑う
何てこと無い一日なのに
特別なのはどうしてだろう
来年もまた来よう



民総踊りがスタート。くまモンのTシャツやそろいの法被を着た団体、浴衣姿の子どもたちや家族連れなどが、やぐらの周りを円になるように囲み「菊陽音頭」の音楽に合わせて踊っていました。

ステージ第二部では、数多くのレパートリーを持つ原口あきまささんの物まねショーが観客を笑いの渦に巻き込みました。その後二人組音楽ユニットのオータムによる透感ある歌声と優しいギターのハーモニーで癒やしの空間が広がりました。最後は、ささきいさおさんの力強い歌声が夏の夜を包み込み、会場は一体となりました。

祭りのフィナーレは総合司会の緒方仁深さんとささきいさおさんの合図により約900発もの花火が打ち上がりました。夜空のキャンバスに打ち上がる色とりどりの華やかな花火に、一瞬時が止まったかのように目を奪われた観客の皆さん。場内に歓声が沸きました。

第38回菊陽町夏まつりが8月3日、菊陽杉並木公園で開催されました。今年は、約2万人が来場。大勢の人で会場が埋め尽くされました。

ステージ第一部では、少林寺拳法やダンス、エアロビクス、日舞、菊陽武蔵剣豪太鼓が披露されました。会場は熱気に包まれ、演技を見よう見まねで踊る姿も随所に見られました。

各団体の素晴らしい発表で会場が一気に盛り上がった後、町

第38回 菊陽町夏まつり